

牛久：学校周辺に見る自然

第24号 牛久自然観察の森

2016年9月25日発行(10月3日一部訂正)

＜ 夏の終わりに、牛久自然観察の森を歩く ～ ⑧ その他の動物たち ＞

9/2、夏の終わりに歩いた牛久自然観察の森。最終回は、その他の動物たちです。



はなみつ きせい 花蜜を吸う寄生バチ、ハネグロアカコマユバチ(左)と、アブラムシが寄生してエゴノキにできた虫こぶ、エゴノコアツツ(右)。

ハネグロアカコマユバチがいろいろな花の蜜を吸っていました。コマユバチの仲間はチョウやガの幼虫などに卵を産みつけ、孵化したハチの幼虫はその栄養を吸い取って成長します。このような関係を「寄生：きせい」といいますが、右の虫こぶもそう。アブラムシ(エゴノコアツツアブラムシ)がエゴノキに寄生してできる虫こぶで、形がネコの足に似ていることからエゴノネコアシフシと名づけられました。



次は花でなく木の汁を吸うセミ。まだアブラゼミもツクツクホウシも、このヒグラシも盛んに鳴いていました。セミのからだは樹皮にまぎれて見つけにくいですね。近くで鳴いていても、目が慣れないと探すのに苦労します。飛び立って別の木に移るときがねらいめ。今回は、ちょうどストロー(口吻)を幹に刺して、木の汁を吸っている写真がとれました。

口先をさしこんで、木の汁を吸うヒグラシ。



ネイチャーセンター前の池にいたトウキョウダルマガエル(左)と、ツチガエル(右)。

ネイチャーセンター一前の池には、いつものようにトウキョウダルマガエルがいました。以前は近所の田んぼなどでよく見かけましたが、ここ数年でめつ

きり少なくなったように思います。原因は何なのか？珍しい生きものにばかり目が行きがちですが、私は「当たり前のようにいた生きものが気がつくといなくなってた」というのが一番こわいと思っています。今回は他に、ツチガエルも見られました。(10月3日、「子どものヒキガエル」をツチガエルに訂正) 【理科支援員：宮内】